



富士 海岸

F U J I K A I G A N

歴史を彩る白砂青松の浜辺

富士海岸

歴史を彩る白砂青松の浜辺



葛飾北斎「富嶽三十六景 東海道江尻田子の浦略図」

目次

より安全に、より身近に

富士海岸の概要	概要	1
	地形・海岸特性	2
	波浪特性	4
	気象・海象	5
	度重なる災害	6
海岸事業	事業概要	8
	富士海岸の海岸保全施設	9
	高潮・高波対策	10
	侵食対策	12
	海岸侵食の変化状況	13
	消波堤の設置状況〔吉原工区〕	14
	離岸堤の設置状況〔富士工区〕	15
	養浜の実施状況〔沼津・吉原・富士工区〕	16
	土砂流出防止工の実施状況〔吉原工区〕	17
	地震・津波対策（耐震）	19
	なぎさりフレッシュ事業	20
	人工リーフ	21
	自然にやさしい海岸づくり	22
海岸利用		23
歴史・文化		24

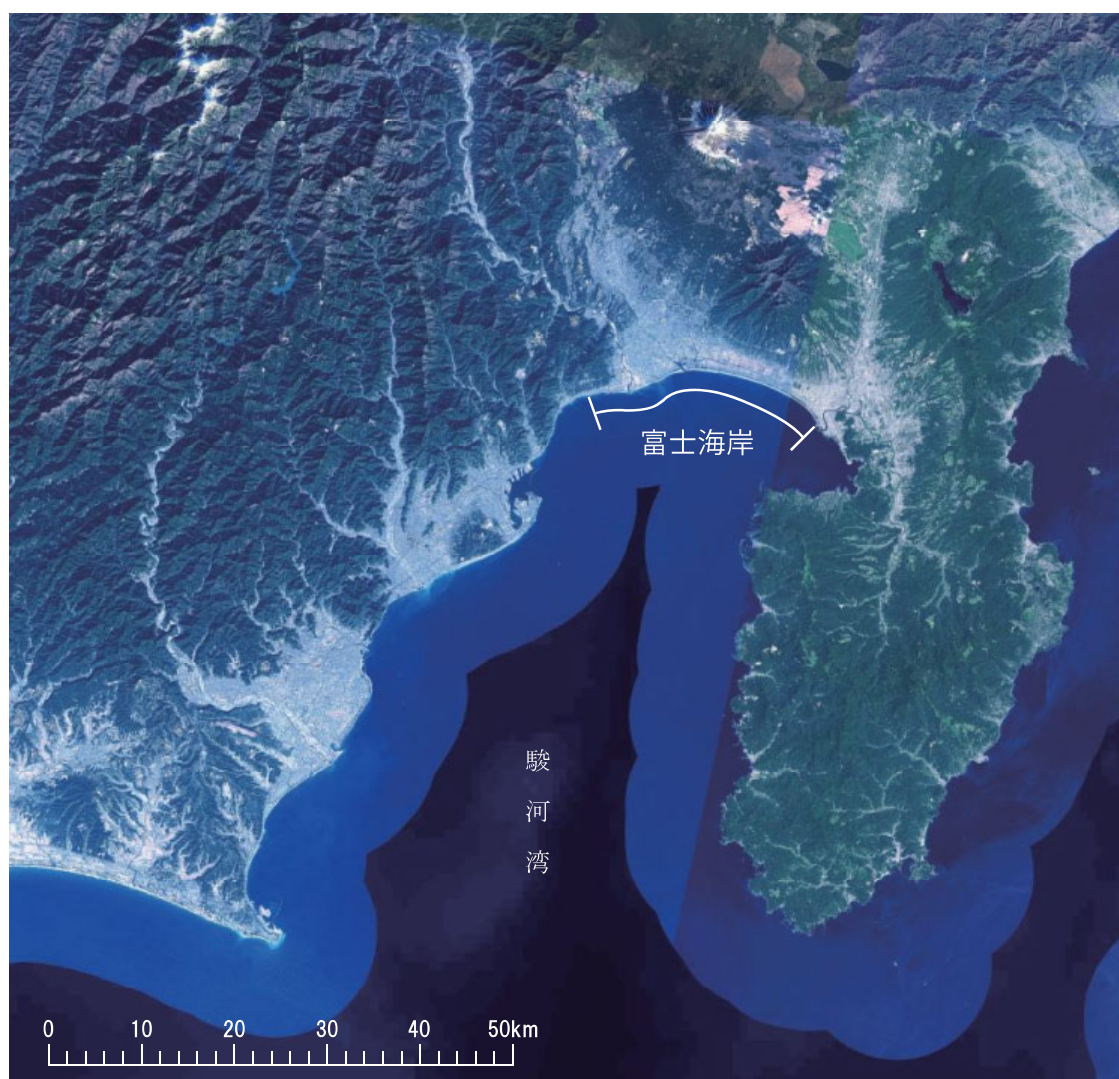
霊峰富士の裾野にある富士海岸は、万葉の歌人にも歌われたように富士山を背景とした白砂青松の景勝地として、その名を広く全国に知られています。

富士海岸は湾口の深さ2,500mにも達する我が国最深の湾である駿河湾の奥に位置し、西は静岡市清水区蒲原堰沢川から、富士川河口を挟み東は狩野川河口まで、延長約23kmの海岸を指しています。

背後地には、我が国の交通の動脈である国道1号をはじめ、東名・新東名高速道路、JR東海道本線および東海道新幹線が隣接して通過し、古くから交通の要衝として機能してきました。

当海岸は、その地形特性から太平洋の巨大な波浪が直接進入するため、これまで幾度となく高波による甚大な災害を受け、また、沿岸漂砂の減少により海岸侵食が進んでいました。

これらの状況に鑑み、背後地域の安全性を確保するため、1967年(昭和42年)に沼津工区・原工区・吉原工区・蒲原工区を、1976年(昭和51年)に富士工区を建設省(現在「国土交通省」)の直轄海岸に指定し、海岸事業を実施しています。

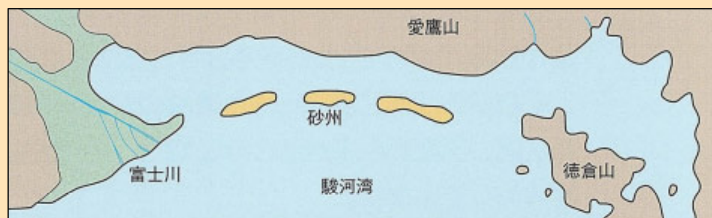


富士海岸は、富士火山の溶岩流が形成した急斜面の上に、富士川からの流出土砂が堆積した弓状の砂州からなり、富士川左岸より狩野川河口まで、幅200m～800m、標高5～10mの田子の浦砂丘と呼ばれる砂丘が形成されています。沿岸の大部分は帯状に連なる標高2m～3mの低湿地で、さらにその背後は愛鷹山及び富士山麓の斜面となっており、こうした地形特性から前面の海底勾配は1/3～1/10と、他の海岸に比べ極めて急なものとなっています。

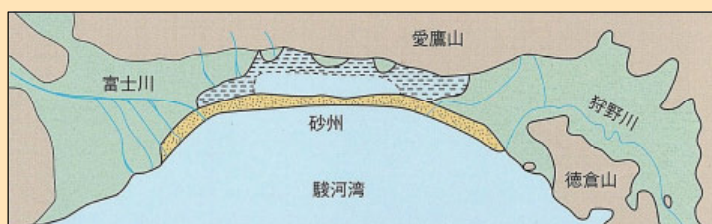
また、日本有数の急流河川で知られる富士川と駿河湾の強い波によって、玉石海岸が形成されているのも当海岸の特性の一つとなっています。

富士海岸の地形変遷

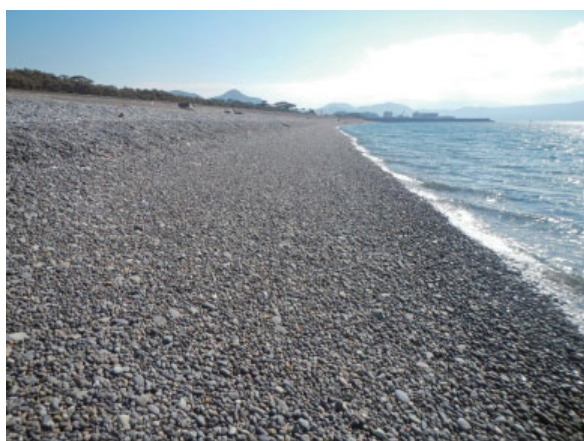
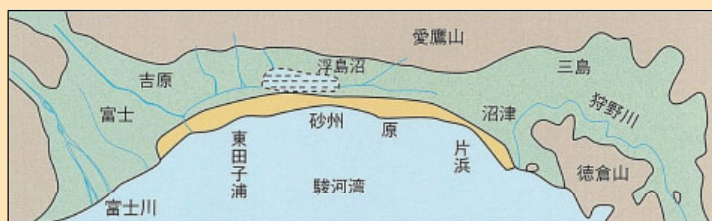
沖積世初期(約200万年前)、富士、愛鷹山山麓や狩野川の谷沿いは海が侵入していました。富士川は次第にこの海を埋めていき、その吐き出す砂礫が海水の作用で東に移動し砂州をつくり始めました。



砂州は成長を続け、ついに愛鷹山との間に潟湖^{せきこ}を形成しました。潟湖^{せきこ}は四周から流入する川によって次第に埋め立てられ、縮小するとともに沼沢化したのです。



現在では放水路や水門の完成と干拓事業の促進により、東田子の浦の北方が埋め残されて沼沢地(ヨシの原野)となっているだけで、他は美田地域となっています。

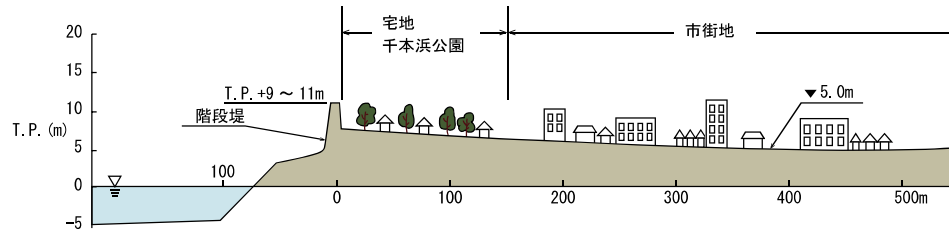


玉石が海岸一帯に広がっている (測線No.5付近, 2018年6月(平成30年6月))

富士海岸の背後地の状況

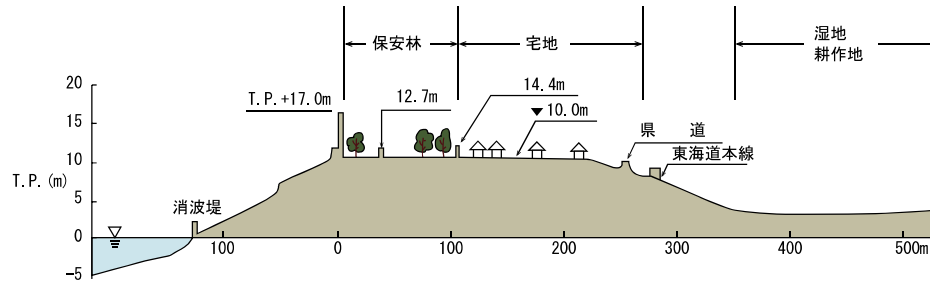
沼津工区

(No.3 付近)



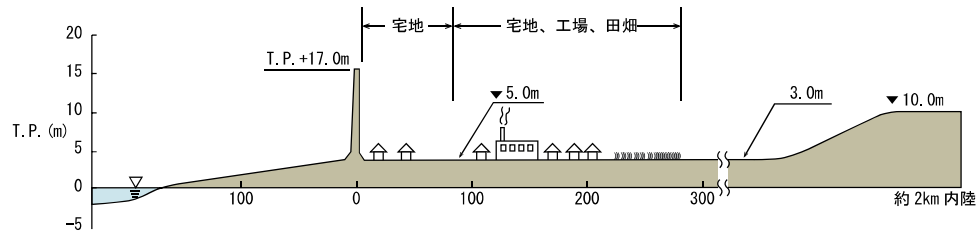
吉原工区

(No.57 付近)



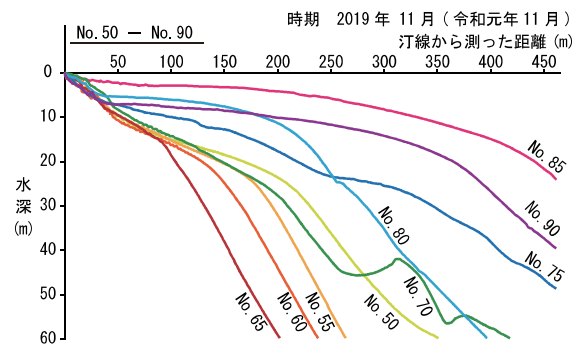
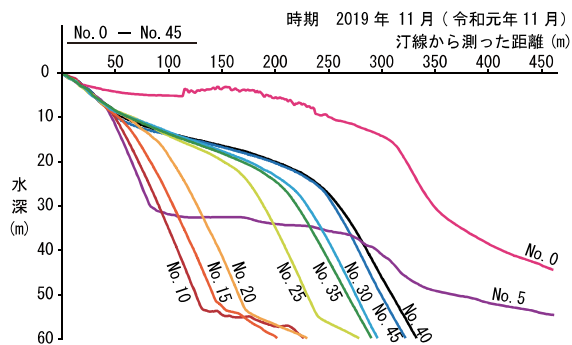
富士工区

(No.80 付近)

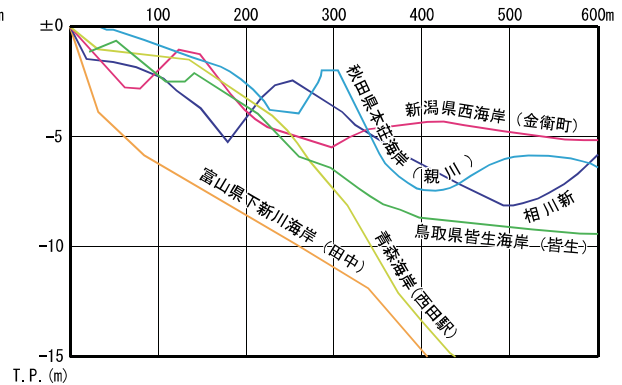
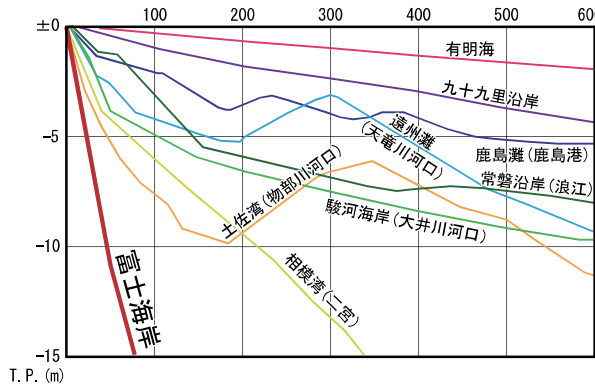


海底横断面図

(測線位置は P. 8 ~ 9 参照)



各地の海底断面形状

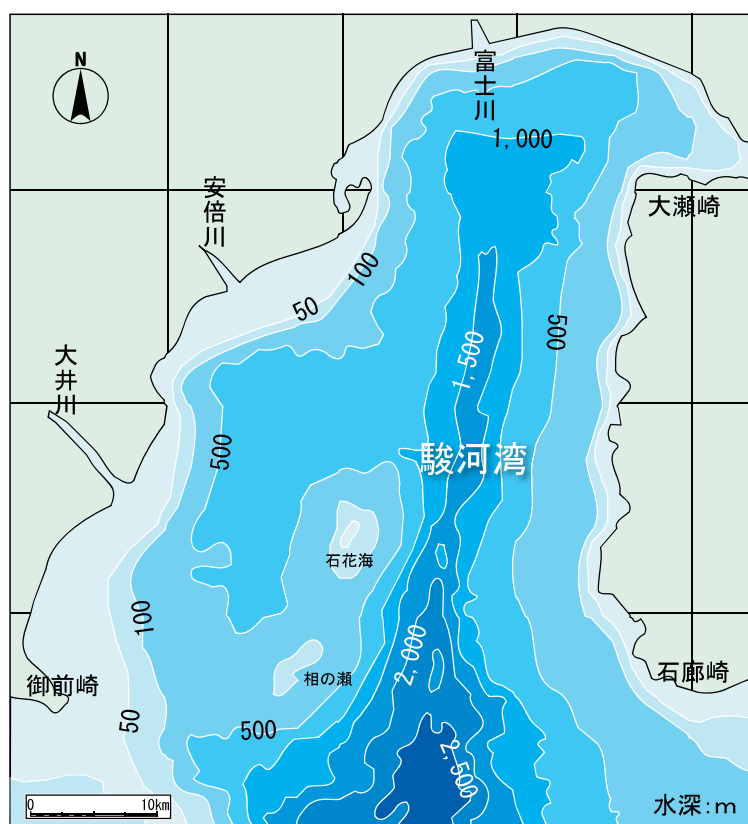


波浪特性

駿河湾は、この等深線図からもわかるように、湾中央部から陸奥にかけて1,000mクラスの等深線が深く入り込み、日本で一番水深が深くかつ湾口が南に向かって開いているため、その奥部に位置する富士海岸は湾の主軸方向である南から南南西のうねりの影響を強く受けます。

また、当海岸は海底勾配が極めて急であるうえに、年中強い風が吹いており、この急深の海底と強い風により巨大な波がつくりだされます。さらに湾口から海岸線までの間には波を遮る島などもないため、太平洋上で発達した台風などによる巨大な波浪は、海岸線のすぐ近くまでそのエネルギーを失うことなく来襲します。

駿河湾等深線図



主な台風と観測波浪

台 風 名	生起年月日	観測有義波高(m)	観測有義波周期(s)	備 考
台風テス	1953年9月25日 (昭和28年9月25日)	7.8	16.3	
台風第21号ヘレン	1958年9月18日 (昭和33年9月18日)	8.0	17.0	
狩野川台風	1958年9月26日 (昭和33年9月26日)	7.0	17.4	
伊勢湾台風	1959年9月26日 (昭和34年9月26日)	8.5	18.0	
第2室戸台風	1961年9月16日 (昭和36年9月16日)	4.0	13.5	
昭和40年台風第24号	1965年9月17日 (昭和40年9月17日)	9.2	13.8	
昭和41年台風第26号	1966年9月25日 (昭和41年9月25日)	10.0	18.0	
昭和54年台風第20号	1979年10月19日 (昭和54年10月19日)	10.2	15.0	原観測所
平成24年台風第4号	2012年6月19日 (平成24年6月19日)	10.0	12.5	原観測所
平成29年台風第21号	2017年10月23日 (平成29年10月23日)	6.7	16.5	田子の浦観測所
平成30年台風第24号	2018年10月1日 (平成30年10月1日)	7.2	9.8	田子の浦観測所
令和元年台風第10号	2019年8月15日 (令和元年8月15日)	3.8	13.0	原観測所

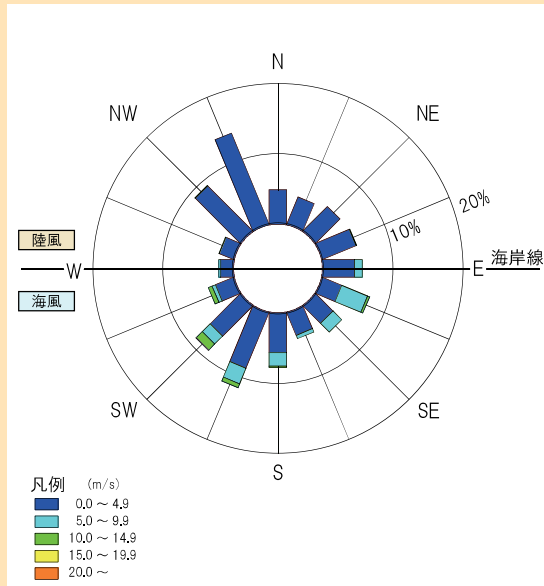
気象・海象

風向・風速の出現頻度は、風速5.0m/s未満では海風と陸風が概ね同程度ですが、風速10m/s以上の強風については南西方向(SSW～WSW)に集中しています。

波高・波向の出現頻度は、南南西(SSW)の波が最も多く全体の50%を占めており、次いで南西(SW)が20%となっています。富士海岸に来襲する波は、駿河湾の湾口方向である南～南西がそのほとんどを占めています。

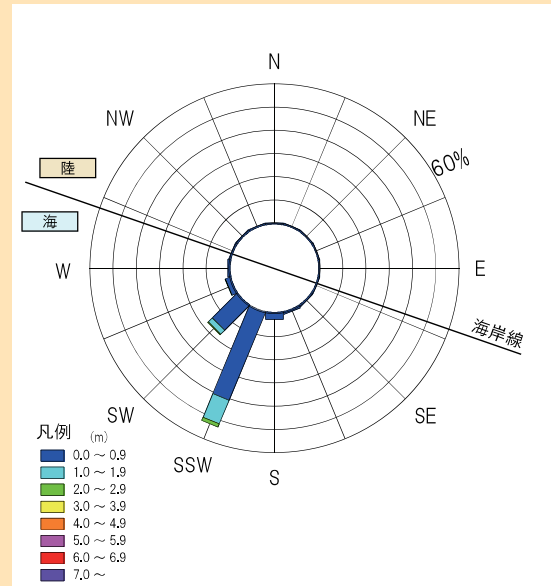
風向・風速出現頻度

(田子の浦、2015～2019年)
(平成27年～令和元年)



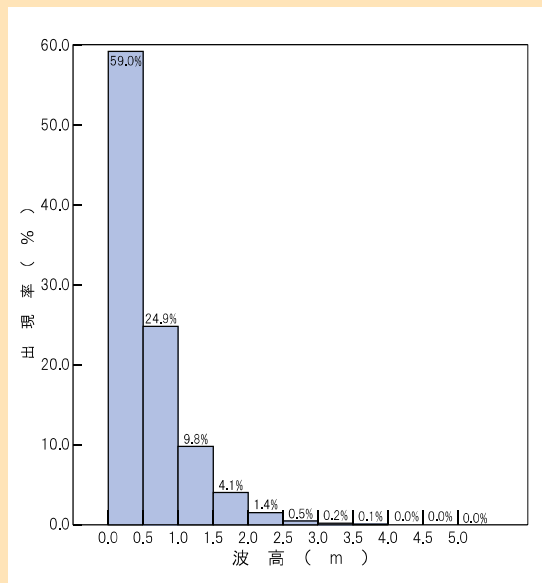
波高・波向出現頻度

(原観測所、2010～2019年)
(平成22年～令和元年)



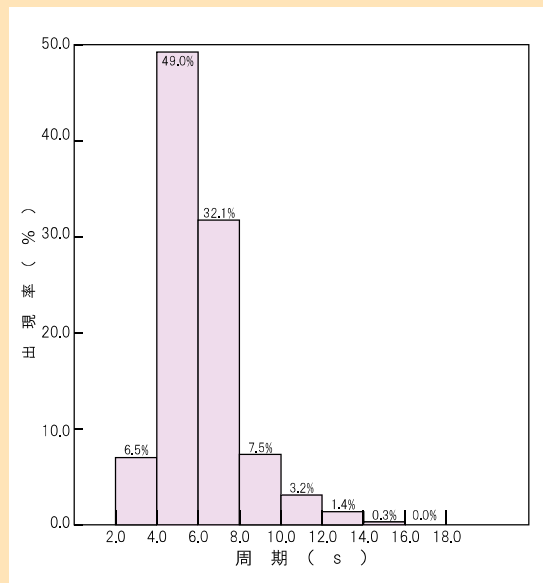
波高出現率

(原観測所、2010～2019年)
(平成22年～令和元年)



周期出現率

(原観測所、2010～2019年)
(平成22年～令和元年)



度重なる災害

戦後の主な災害としては、1959年9月(昭和34年9月)の伊勢湾台風、1966年9月(昭和41年9月)の台風第26号および1979年10月(昭和54年10月)の台風第20号によるものが挙げられます。

伊勢湾台風後、静岡県によりT.P.+13.0mの高潮堤防を築造しましたが、1966年(昭和41年)台風第26号では吉原地区で越波し、死者13人、全壊家屋26戸、半壊家屋25戸の被害を受けました。また、富士工区の三四軒屋では汀線の後退により海岸堤防基部が洗掘され、堤防本体が200mにわたって崩壊しました。

その後、直轄工事によりT.P.+17.0mの高潮堤防の整備を進めたこともあり、昭和54年台風第20号では、有義波高10.2mを記録したものの大きな災害に至らず、消波堤のコンクリートブロックが散乱した程度にとどまりました。1994年(平成6年度)に堤防が完成して以降も、大きな被害は発生していません。

1966年9月(昭和41年9月) 台風第26号



越波により被災した家屋(富士市今井地先)



越波により堤防を越えて打ち上げられたブロック(富士市今井地先)



長さ200mにわたって崩壊した海岸堤防(富士市三四軒屋地先)

過去の災害

西暦	年号	記 事	資 料
684	天武 13	伊豆の海中一島をなし、各地人畜被害多し	鷹岡町の史蹟と伝説
1263	弘 長 3	大風、鎮西の貢運送船61艘、伊豆の海に漂着	豆州志稿
1338	延 元 3	伊豆国大風、義良親王東国下向の船、伊豆崎で大風に遭い船多く漂流	静岡県郷土研究
1498	明 応 7	東海道沖津波、浜名湖が海と通じる。静岡県志田郡地方で流死26,000人	理科年表(S5-1)
1605	慶 長 9	仁科郷(伊豆西海岸)海溢れて陸地を浸すこと12町余り(慶長地震による津波)	豆州志稿
1611	慶 長 16	高潮により原宿人家諸施設流失、旧宿場を放棄して現位置に移転	原町誌
1660	万 治 3	原宿付近、津波で皆無	原町誌
1662	寛 文 2	原宿付近、潮入収獲皆無	原町誌
1680	延 宝 8	田子の浦付近、大津波	田子のふるみち
1699	元 禄 12	田子の浦付近、大津波(大風。大波、潮湛ゆる事2、3尺)	田子のふるみち
1707	宝 永 4	東海道沖津波、九州南岸より伊豆まで被害うく(宝永地震による津波)死者4900人、潰家29,000戸	理科年表(S.43)
1854	安 政 1	伊豆西海岸重須部落、大津波3度打上げ民家土蔵とも跡形もなく一円河原となる。東海道沖死者1,000人、潰家8,300戸(安静地震による津波)	内浦漁民資料
1884	明 治 17	砂石吉原浜口を閉塞、沼田氾濫して吉原宿以東富士沼に至る間、大湖水となる(大暴風雨)	田子のふるみち
1899	明 治 32	10月7日大波砂山を越し鈴川駅(吉原)北まで大海となる。死者55人、負傷者162人(東南烈風)	田子浦海嘯始末
1959	昭 和 34	伊勢湾台風による高波、田子の浦港付近で民家20戸破壊、蛇籠堤3,120m破壊、階段堤228m	
1966	昭 和 41	台風第26号による越波により吉原付近で死者13名、全半壊家屋51戸、洗掘により三四軒屋で、堤防本体が200m崩壊	
1979	昭 和 54	台風第20号による高波により消波堤のコンクリートブロックが散乱し、貨物船ギャラティック号打ち上げられる。	



1979年10月(昭和54年10月) 台風第20号

観測された最大の有義波高10.2m, 潮位T.P.+1.13m

高波により打ち上げられたギャラティック号(富士市吉原地先)



堤防に打ち寄せる高波



高波により散乱したコンクリートブロック(富士市吉原地先)

近年の災害



平成28年8月台風第12号。高波浪後の海岸、根固工が露出している。(No.48付近)



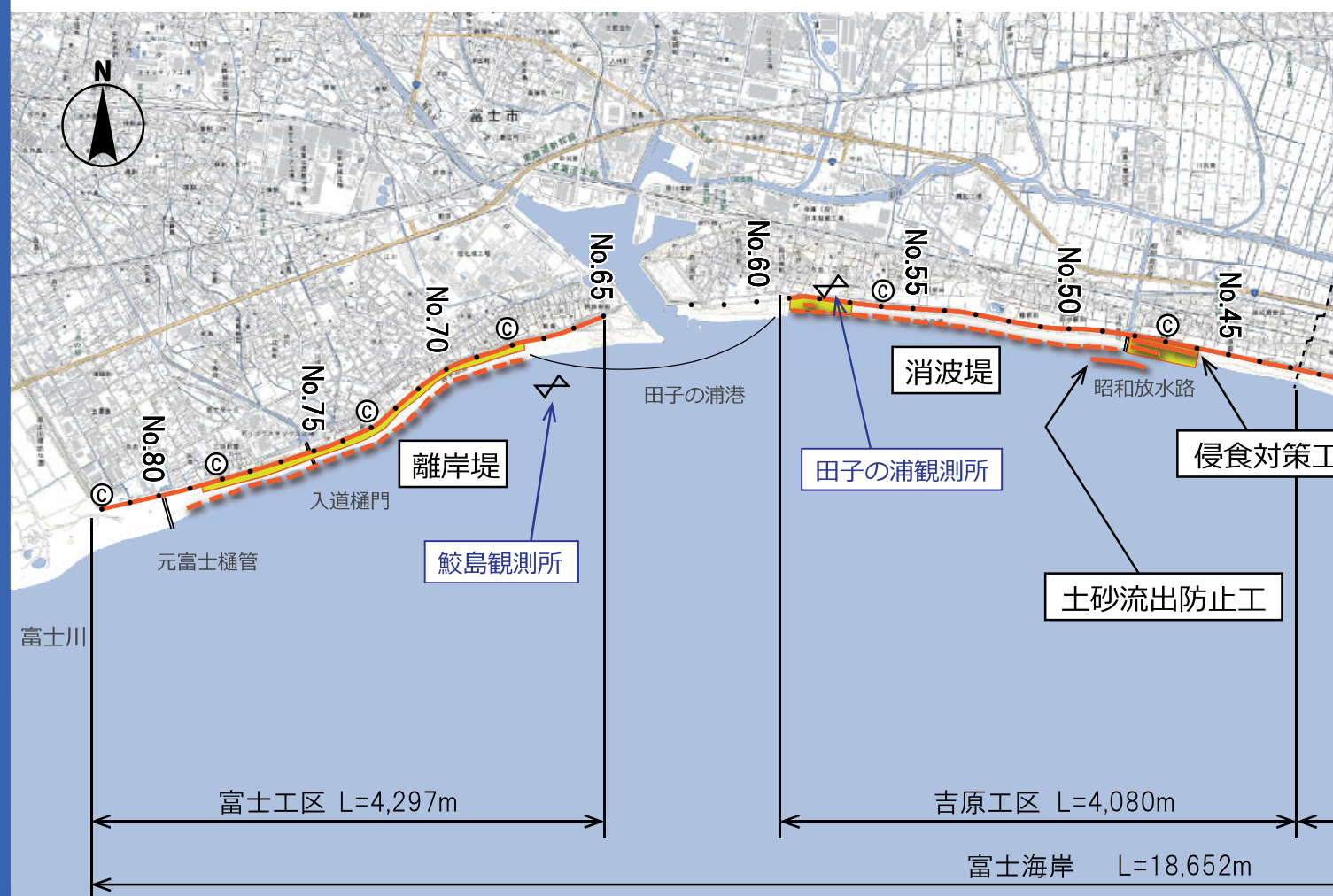
平成29年6月台風第7号。高波によって海岸が削られている。(No.55付近)

事業概要

海岸保全事業は高潮・津波などの災害や海岸侵食等の脅威から背後地の住民や資産を守るために行っています。富士海岸ではこれまで、高潮堤防をはじめとし、離岸堤・消波堤・人工リーフ・養浜・土砂流出防止工などによる侵食対策を進めてきており、大きな効果を得ています。

しかし、依然として砂浜が狭い場所もあり、より安全でより利用され親しまれる海岸を目指すには、さらなる整備が必要です。

そのため、沼津河川国道事務所では沼津工区・原工区・吉原工区・富士工区について、また、静岡河川事務所では蒲原工区について、今後も富士海岸の侵食対策を進めると同時に、海岸の利用や自然環境、景観などに配慮し、誰もが親しめる海岸づくりもあわせて進めていきます。



海岸保全区域

工区名	町村名	海岸保全区域 指定年月日	指定延長(m)	直轄指定年月日	海岸保全施設延長(m)
沼 津	沼津市	1968.7.23 (S43.7.23) 1991.11.12 (H3.11.12)	5,071 *1	1967.6.1 (S42.6.1) 1991.12.4 (H3.12.4)	5,071 *1
原	沼津市	1968.7.23 (S43.7.23)	5,574	1967.6.1 (S42.6.1)	5,574
吉 原	富士市	1968.7.23 (S43.7.23)	4,080	1967.6.1 (S42.6.1)	4,098
富 士	富士市	1969.2.28 (S44.2.28) 1975.1.28 (S50.1.28)	1,780*2 3,645	1976.5.10 (S51.5.10)	4,297

*1 人丁リーフによる区域変更

*2. 田子の浦漁港隣接区域を含む

富士海岸の海岸保全施設

沼津工区

富士海岸唯一の海水浴場である千本浜があり、人々に親しまれていることから、多様な海浜利用に配慮した階段状の堤防を整備しました。また珊瑚礁の持つ消波機能に着目し、海面下に消波施設を設置して、景観に配慮した人工リーフを整備しました。

原工区

現在海浜は安定していますが、徐々に波及しつつある侵食を食い止めるため、吉原工区と一体となった安定的な海浜形成を図っています。

吉原工区

昭和放水路以西については、消波堤の整備により現在の砂浜は比較的安定しています。一方、昭和放水路以東については広域的で長期的な海浜の回復を図るため、養浜や土砂流出防止工の整備を行ってきました。今後も引き続き養浜を実施し、海浜の回復・安定化を図るとともに、田子の浦港管理者と連携したサンドバイパスも実施していきます。

富士工区

離岸堤の設置、越波対策としての養浜の実施、海岸堤防の耐震対策として補強工事を実施してきました。



高潮・高波対策

富士海岸における高潮・高波対策は、これまでの災害の経験を踏まえて各種のデータを分析・検討した結果、以下のような計画諸元にて実施してきました。

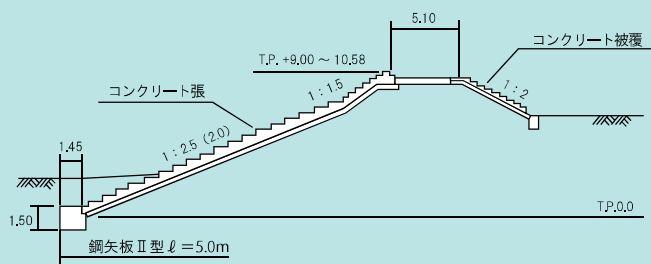
これは、堤防高T.P.+17.0mを基本としており、日本一高い高潮堤防を築造しています。この高さは、伊勢湾台風級の高波が来襲した場合や、南海トラフの巨大地震による津波が発生した場合でも背後の人家等に被害を与えない高さとなっています。

計画諸元

項 目	諸 元 値
計 画 潮 位	T.P.+1.6m
計 画 規 模	伊勢湾台風規模の台風
計 画 コ ー ス	伊勢湾台風のコースを200km東に移動させたコース
計 画 波 浪	沖波最大波高 $H_{0max} = 26.0m$ 沖波有義波高 $H_{01/3} = 17.0m$ 周 期 $T = 20sec$
許 容 越 波 量	しぶき被害を許さない地区 沼津工区(千本浜、片浜東)・富士工区 $q_c = 0.001m^3/m \cdot s$ 越波被害を許さない地区 沼津工区(片浜西)・原工区・吉原工区 $q_c = 0.01m^3/m \cdot s$
計 画 堤 防 高	T.P.+17.0m 但し沼津地区の東寄り約4.5kmは、沼津港の堤防高T.P.+9mに擦り付け

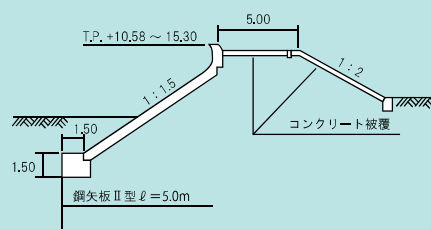


(No.0~No.3+140)

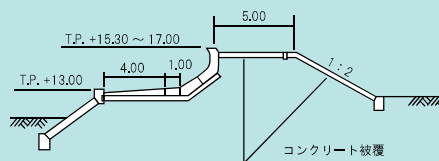


沼津工区 (No.0~No.18)

(No.3+140~No.13+200)



(No.13+200~No.18)

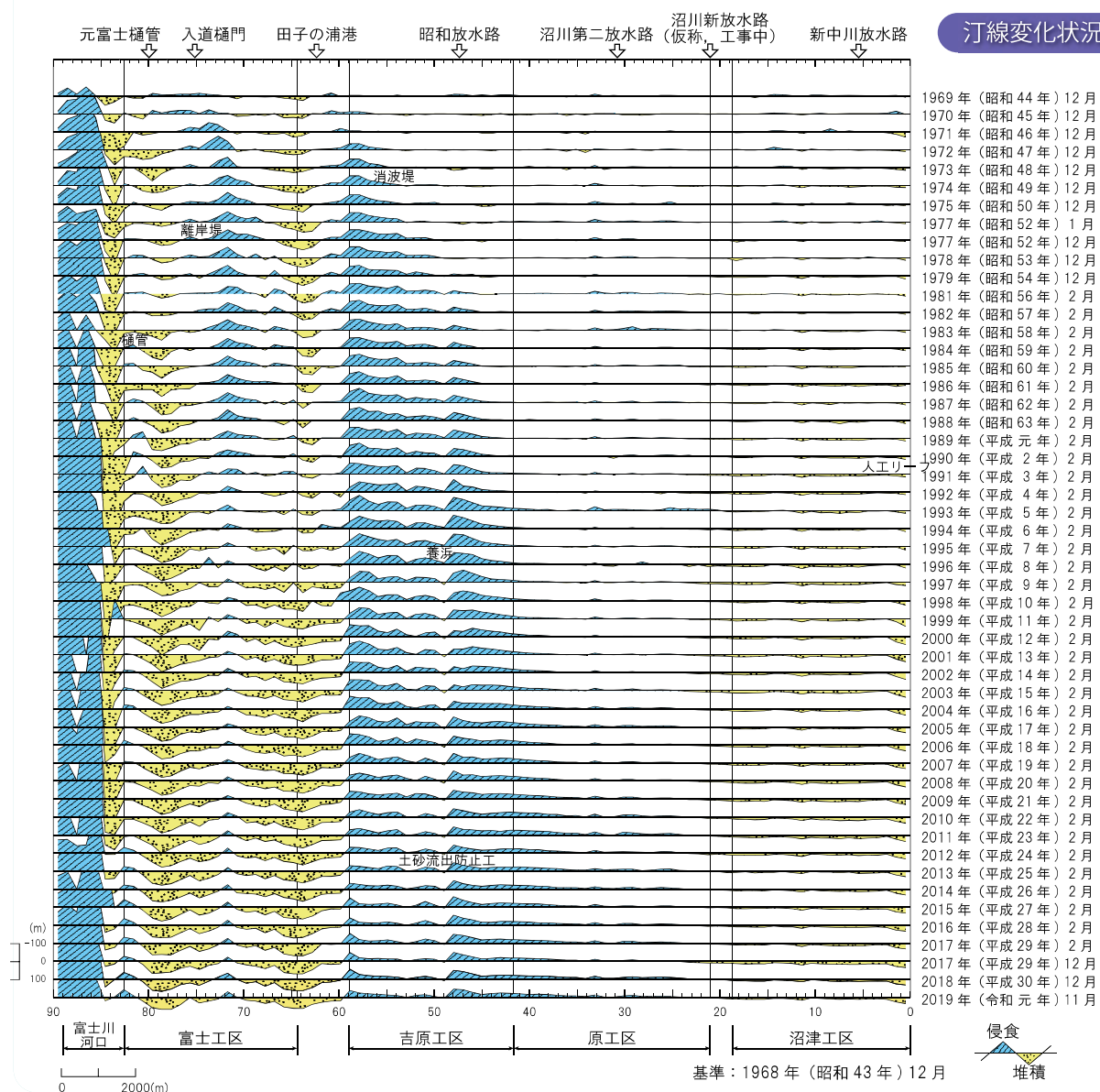


富士海岸は、富士川河口から東へ向かう沿岸漂砂が卓越する海岸ですが、富士川からの流出土砂の減少や田子の浦港の建設による漂砂の遮断によって、1960年(昭和35年)頃から各地区で侵食が進むようになりました。

富士工区では、1960年(昭和35年)から静岡県によって侵食対策事業が実施されましたが、なお侵食傾向が止まらないため、1976年(昭和51年)5月から建設省(現在「国土交通省」)の直轄工事区域として、その事業を引き継ぎました。1974年(昭和49年)の「富士海岸保全対策検討会」で提案された離岸堤工法を建設省土木研究所(現在「国土交通省国土技術政策総合研究所」)で模型実験を行って施設効果を検証し、離岸堤の断面形状、設置位置などを決定しました。1977年度(昭和52年度)から離岸堤の設置に着手し、1987年度(昭和62年度)までに暫定断面で19基設置しました。さらに、1988年度(昭和63年度)から全断面の施工を開始し、現在までに10基完了しています。

吉原工区では1974年度(昭和49年度)から消波堤に着手し、田子の浦港側から東に向けて順次施工を行い、1979年度(昭和54年度)までに昭和放水路までの区間に18基設置しました。また、2013年度(平成25年度)からは土砂流出防止工に着手し、2018年度(平成30年度)に完了しています。

このほか、富士工区、吉原工区、沼津工区では養浜工も実施しています。



海岸侵食の変化状況

吉原工区

1947年・1952年(昭和22年・27年)



1966年(昭和41年)



2018年(平成30年)



富士工区

1947年・1952年(昭和22年・27年)



1966年(昭和41年)



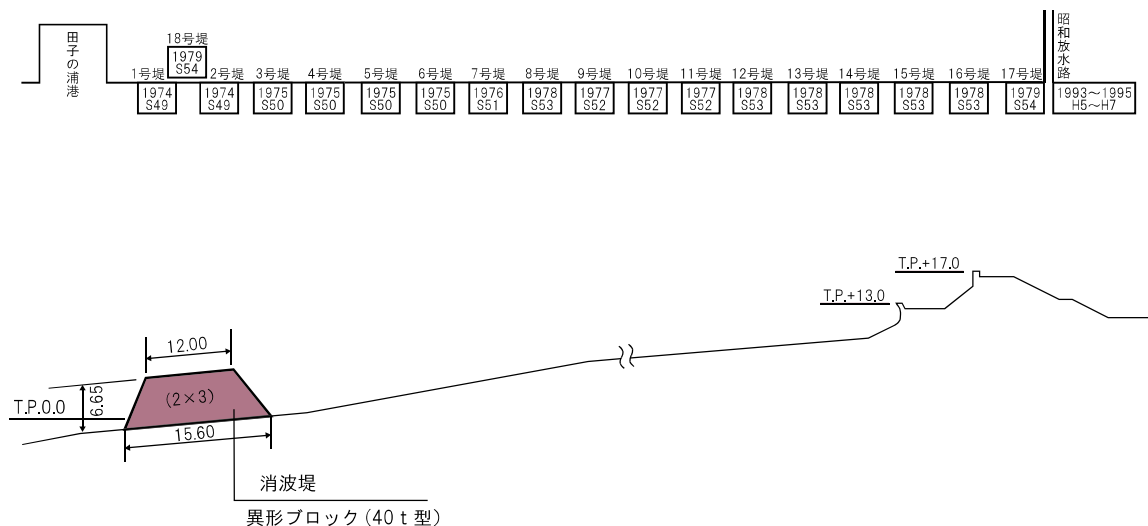
2018年(平成30年)



消波堤の設置状況

吉原工区

施工期間：1974(S49)～1995(H7)

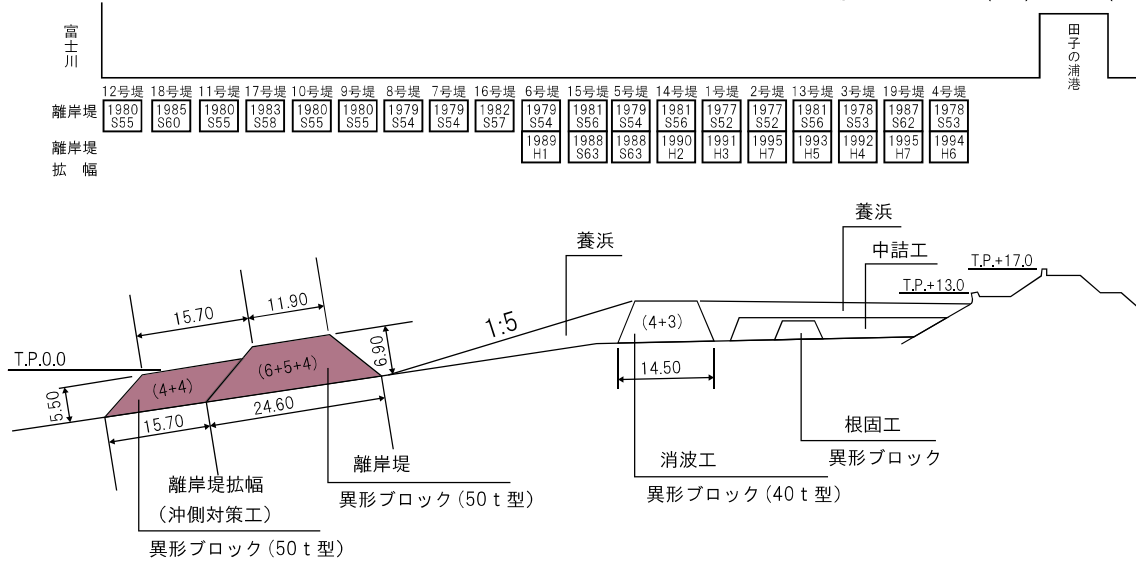


2002年2月(平成14年2月)

離岸堤の設置状況

富士工区

施工期間：1977(S52)～1995(H7)

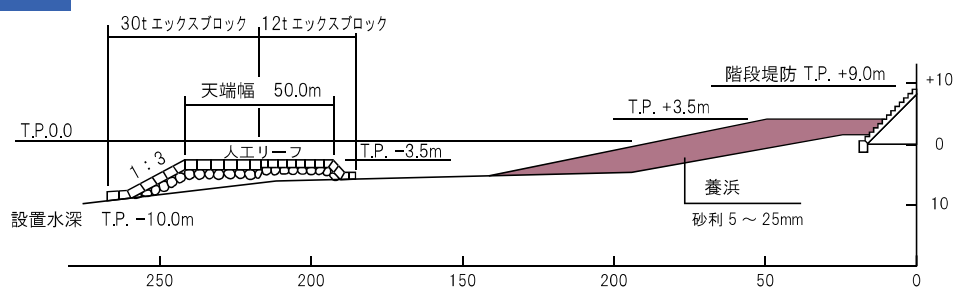


養浜の実施状況

沼津工区

(No.0~No.1+150)

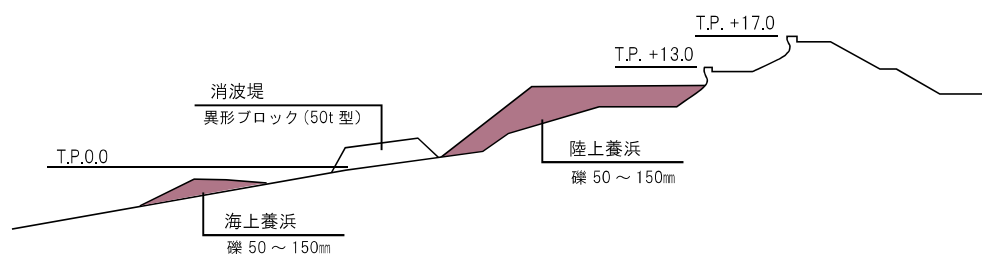
施工期間：1996(H8)～1999(H11)



吉原工区

(No.46~No.48付近)

施工期間：1991(H3)～

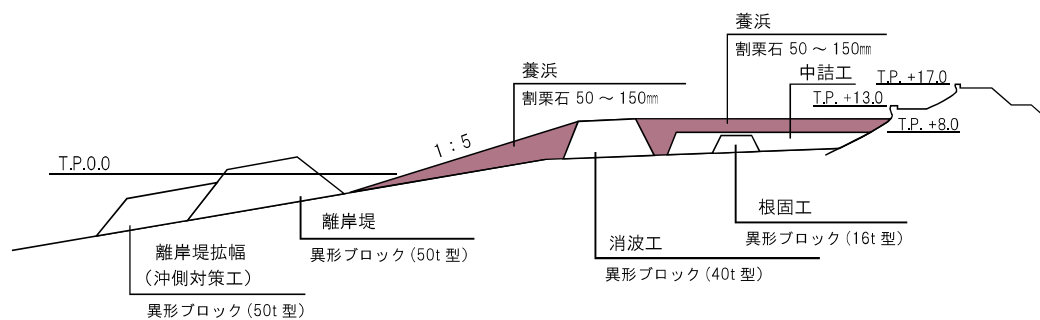


※養浜粒径は実施時期により異なる

富士工区

(No.67+100~No.78+150)

施工期間：1991(H3)～2002(H14)



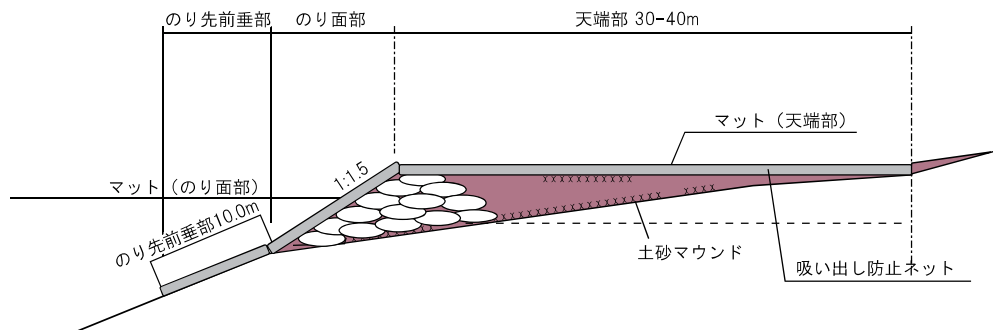
養浜施工の状況
(吉原工区、2017年度(平成29年度))

土砂流出防止工の設置状況

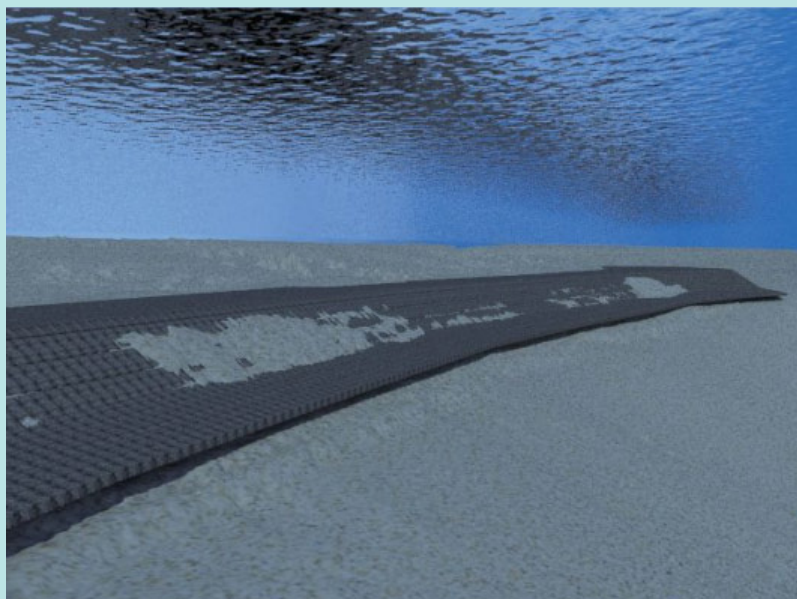
吉原工区

(No.47+221~No.49+180)

施工期間：2013(H25)～2018(H30)



陸上試験施工の状況(吉原工区)



土砂流出防止工(CG)

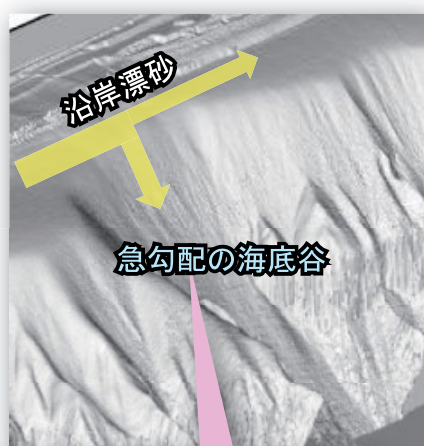
土砂流出防止工

駿河湾の奥に位置する富士海岸は、他の海岸と比べて海底地形が急勾配となっています。特に、昭和放水路前面には海岸線近くまで急勾配の海底谷が迫っており、西から東へ流れる沿岸漂砂が、この海底谷へ流出している事がこれまでの調査で確認されていました。一度海底谷へ流出した漂砂は再び海岸線に戻ることはないため、砂浜が減少する一因となっています。

そのため、土砂流出防止工を設置して沿岸漂砂の流出を抑制し、東に流すことで、砂浜を確保するとともに越波防止を図ります(全国初の事業)。

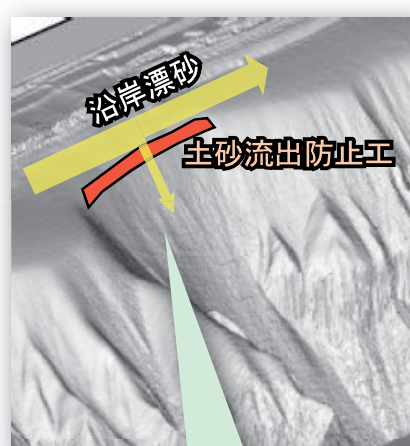
土砂流出防止工の効果

● 整備前



海底地形が急勾配であるため、沿岸漂砂が流出してしまいます。

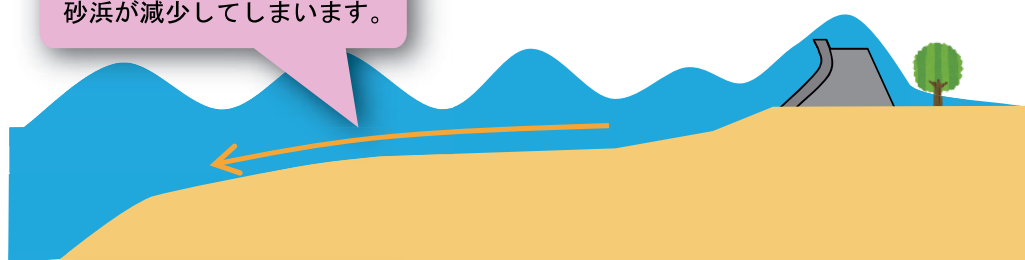
● 整備後



土砂流出防止工により、連続的な沿岸漂砂を確保します。

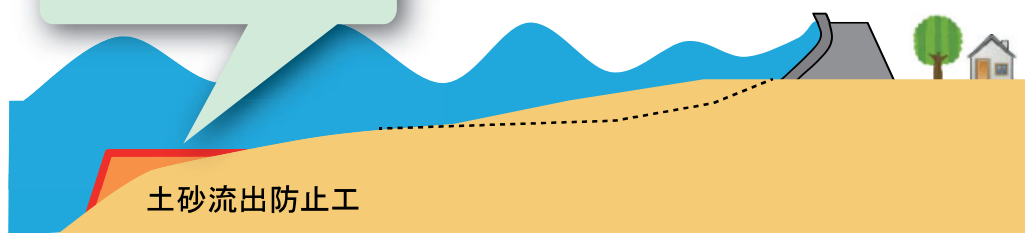
沿岸漂砂が沖へ流出すると、砂浜が減少してしまいます。

● 整備前



土砂流出防止工により砂浜を確保し越波を防止します。

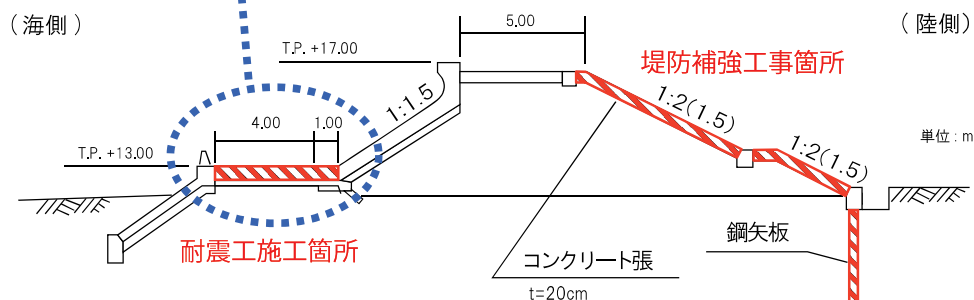
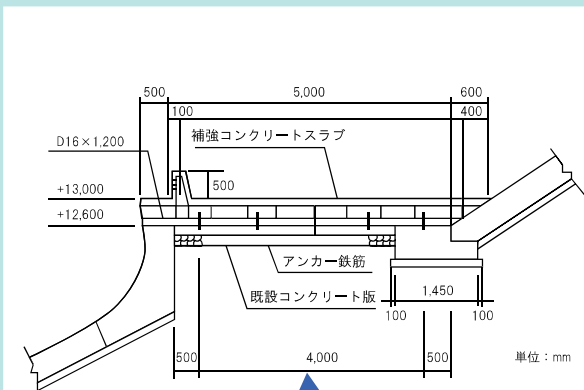
● 整備後



地震・津波対策（耐震）

1978年6月(昭和53年6月)に公布された大規模地震特別措置法に基づいて、1979年8月(昭和54年8月)に静岡県は東海地震の地震防災対策強化地域に指定され、堤防の老朽化などの安全性について検討されました。1982年度(昭和57年度)から前小段の耐震対策工を富士、吉原、原及び沼津工区の一部表法面で実施し、また平成元年度からは富士工区において堤防裏法面をコンクリート張構造とするとともに鋼矢板基礎による耐震対策工事(堤防補強工事)に着手し、2001年度(平成13年度)に完了しました。

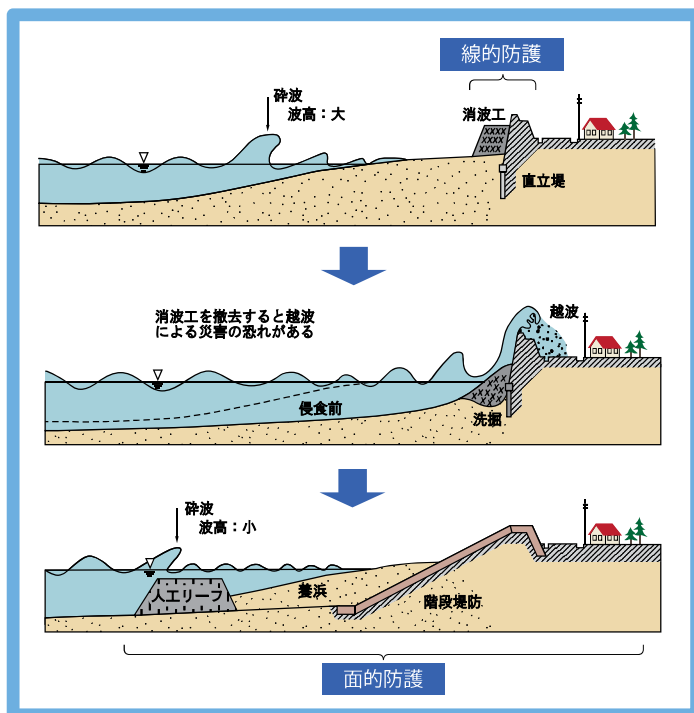
堤防補強工事



なぎさリフレッシュ事業

なぎさリフレッシュ事業は、堤防の老朽化に伴い消波工等を沖側の離岸堤や人工リーフの構成材料の一部または全部に計画的に転用することにより、なぎさを回復させ、かつ地域の活性化に資することを目的として実施するものです。これにより、快適でうるおいのある海岸環境を創出し、地域住民が海と親しみ、海浜レクリエーションなどに利用できるようになりました。

富士海岸では1991年度(平成3年度)より沼津工区で実施しており、1999年度(平成11年度)末に事業が完了しました。



転用前1994年9月(平成6年9月)

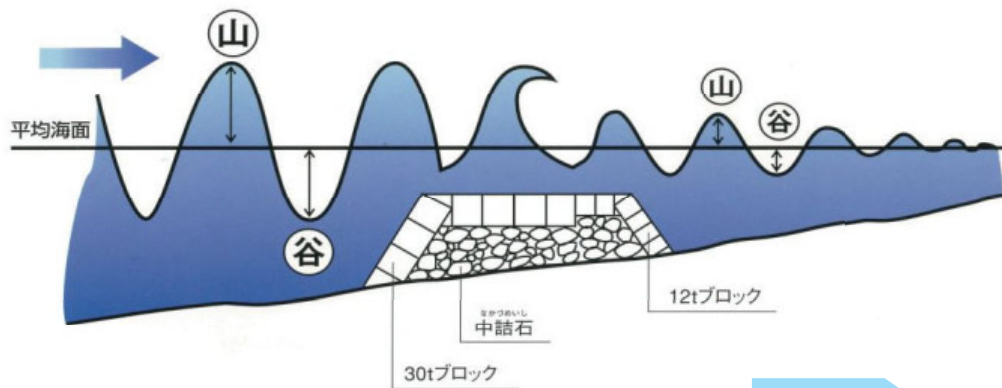


転用後1998年2月(平成10年2月)

人工リーフ

珊瑚礁(リーフ)に囲まれた内海は外海が荒れていても静けさを保っています。人工リーフ工法はそのことに着目し、珊瑚礁の代わりに海底に採石などを積み上げて人工的な浅瀬をつくり、大きな波をここで砕けさせることで、安全度の高い海岸を創出させようとするものです。海面下に設置するので美しい海辺の景色を損ねたり、マリンスポーツの障害になったりしないで海岸域を災害から防護することができます。

人工リーフの効果



深い水深で押し寄せる大波は、平均海面をはさんで「谷」の深さと「山」の高さがほぼ等しく進んできます。

しかし人工リーフで水深が変わると、波が高い「山」と浅い「谷」となりバランスがくずれ、波が砕けます。

砕けた波はリーフの上の浅い水深を「谷」とする深さの波が精一杯となり、はじめの大波とは比較にならない位のさざ波になってしまいます。



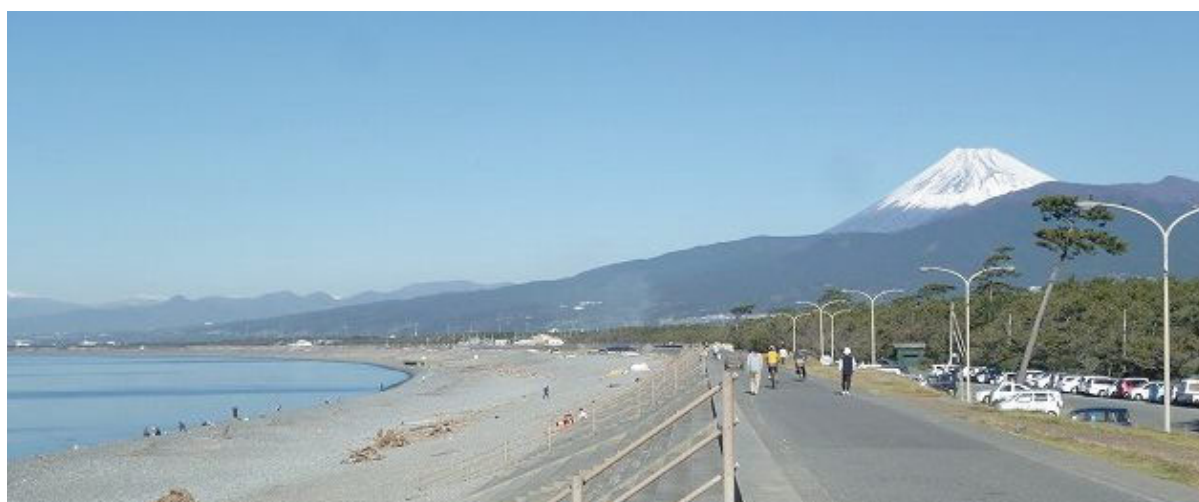
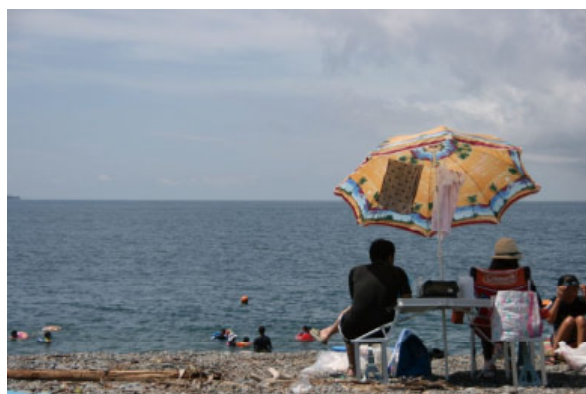
1994年6月(平成6年6月)
海面下に人工リーフが設置されているのが見える(沼津工区)

身近な浜辺でリフレッシュ

富士海岸は背後に富士山を配し、背後地には豊かな松林が帯状に連なっており、海岸景観が極めて良好で、また堤防が高く、視点場としてのポテンシャルを有していることなどから、近隣住民による散策やジョギングなどの余暇活動に利用されています。さらに、鉄道や国道などからのアクセスも良好で、外部から訪れる人も多くなっています。

海水浴場として整備されている千本浜では、トライアスロンなど様々なイベントが催されています。近年は、海洋レクリエーションとして富士川河口や千本浜付近でボートセーリングなども盛んに行われています。

このように利用されているわたしたちの海岸を、快適でうるおいのある海岸に保つため、各海岸愛護団体などによって海岸の美化活動が行われています。



弓なりにぐるりっと歴史・文学散歩

富士海岸には万葉の時代から今日までたくさんの人々がこの浜を愛し、訪れました。万葉集の歌人、山部赤人の歌碑で知られる田子の浦や、若山牧水歌集の千本松原など、数多くの文学作品の題材になっており、多くの文学碑が点在しています。

また、背後には富士山、そして観光の名所である伊豆・箱根の玄関口に位置していることもあり、周辺には様々な観光施設やレジャーランドがあります。



① ディアナ号の錨

ディアナ号は、ロシアと日本における通商条約の締結と領土(国土)の確定というところを目的として1853年(嘉永6年10月6日)、ロシアから派遣された、ロシア海軍最強の新鋭帆船(軍艦)です。

1854年12月23日(嘉永7年11月4日)、に「安政の大地震」が起き、このロシア軍艦ディアナ号は、遭難しました。



② 万葉歌碑

山部赤人(生年・没年不明)は、奈良時代の歌人で「万葉集」に数多くの秀歌を残し、柿本人麻呂と並び称せられています。

この富士山を望む歌は、赤人が政府の役人として東国に赴く道すがら、田子の浦から仰ぎ見た富士山の姿が余りにも雄大で、美しく神秘的であったため、その印象を詠んだ叙景歌の最高傑作であるといわれています。



③ 毘沙門天

富士川鈴川の毘沙門天祭(旧暦1月7~9日)には、新春の社寺の縁日に達磨市が立つ事により、900を越す露店が並び、3日間に30万余りの人出で賑わいます。(富士市今井:妙法寺)



④ 増田平四郎の像

増田平四郎は、浮島沼の水を干すため、1869年(明治2年)、現在の昭和放水路と同じ所に掘割(スイホン)を作りました。

しかし、この年の高波のため、この掘割は壊れてしまいました。



⑤ 白隠禅師墓

「駿河には過ぎたものが二つあり、富士のお山に原の白隠」とうたわれ江戸時代の中頃、一休、沢庵和尚と並んで庶民に親しまれた白隠禅師のゆかりの寺が原にある松陰寺であり、その中に、白隠禅師の墓が建てられています。



⑥ 増誉上人像

天正年間、千本松原は、武田・北条氏の合戦場となり、防風林の松林は激しくなぎ倒され、付近の住民は強い潮風に苦しんでいました。その頃、延暦寺の僧長円は、これを救うには松林を復元するよりほかに無いと一念発起し、阿弥陀経を唱えながら、苦心植樹したのが、現在の松林と伝えられています。





⑭ 沼津御用邸

1893年(明治26年)、当時皇太子殿下であらせられた大正天皇の静養別御殿として造営され、明治・大正・昭和三代にかけて行幸啓60余回数えられました。1969年(昭和44年)沼津に無償貸与されて、新たに「御用邸記念公園」として生まれ変わりました。



⑬ 本居長世詩碑

「赤い靴」「十五夜お月さん」などの作曲で知られている本居長世は、毎年、沼津で夏を過ごしていました。本居長世の詩碑は、港口公園にあります。



⑫ 芹沢光治良文学館・
芹沢光治良文学碑

芹沢光治良は、沼津市我入道の出身です。1897年(明治30年)網元芹沢常晴の次男として生まれています。中学校時代から文才を認められ「失恋者の手紙」を処女作に、「巴里に死す」、「人間の運命」などが代表作に挙げられます。

なお、1951年(昭和26年)に戦後初の日本ペンクラブ会長になっています。



⑪ 勝田香月記念碑

現代詩は、短歌や俳句などの文芸に比べると、歴史は新しく、大正時代には勝田香月、橋爪建、井東憲、などが活躍しています。

沼津とゆかりの深い勝田香月の記念碑は、港口公園にあります。



⑩ 若山牧水記念館

沼津市は、牧水にゆかりの深い千本松原の一角、海岸に面した景勝の地に「沼津市若山牧水記念館」を建設しました。

牧水歌風の真髄たる浪漫的地純の歌の成り立ち、「自己即詩歌」の歌境など、永眠するまでの足跡を一堂に集めて、編年体で展示してあります。



⑨ 井上靖(千本浜公園)

多感な青春時代(沼津中学、現沼津東高校)を沼津で過ごした井上靖の文学碑は、JR沼津駅前、沼津東高校、千本浜公園、下宿先の港町(現下川原町)妙覚寺等市内ゆかりの場所に建てられています。「千本の海のかげら少年の日 私は毎日それを 一つずつ食べて育った」



⑦ 若山牧水歌碑(千本浜公園)

若山牧水は、多くの歌集を詠み、そのほとんどが歌集「黒松」に収められました。香貫山腹の香陵台と千本松原に歌碑が建てられましたが、後者に有名な「幾山河こえさりゆかば寂しさのはてなむ国ぞけふも旅行く」が詠まれています。1920年(大正9年)から没するまでの8年余り、沼津市に住んでいました。



⑧ 角田竹冷句碑(千本浜公園)

沼津における自由民権運動の中で、江原素六とともに、俳人角田竹冷は無視できません。夫人栄子(ひさ)は内浦重須(現沼津市内)の出身です。

千本浜公園には、「時は弥生 瓢枕にかな」と詠んだ角田竹冷の句碑が建てられています。



より安全に
より身近に

国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所

〒410-8567 静岡県沼津市下香貫外原3244-2
TEL 055-934-2009 FAX 055-934-2019
ホームページ <https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/>

富士海岸出張所

〒417-0015 静岡県富士市鈴川町9-14
TEL 0545-32-0568 (FAX切替可)

令和2年2月作成